
岩手大学大学院連合農学研究科

*The United Graduate School of Agricultural Sciences,
Iwate University*

2023年度 指導教員の手引き



はじめに

岩手大学大学院連合農学研究科（岩手連大、UGAS）は、我が国の東北に位置する3大学（弘前大学、岩手大学、山形大学）がそれぞれの特色を活かした教育と研究体制を整えることにより、農学に関する研究と講義等を通じて、高度な専門的能力と豊かな学識を備えた研究者・技術者を養成する博士課程の大学院です。

この冊子は、指導教員用に教育課程について解説した手引き書です。指導学生の教育課程について理解を深めていただくとともに、適切な学生の科目履修指導、研究指導をお願いします。

この冊子では主指導教員が成績評価を行う科目に限って説明しています。その他の講義の詳細は学生に配布しているシラバスでご確認ください。

また、デュアルディグリープログラムの教育課程表も参考までに掲載しました。

2023 年度講義日程

Academic Calendar 2023

2023. 4. 1現在

2023 年度 前 期 1st semester	
4 月 10 日 (Mon) April 10	研究者倫理 (日本語) Ethics and Research (Japanese)
4 月 10 日 (Mon) April 10	研究者倫理 (英語) Ethics and Research (English)
6 月 14 日 (Wed) ~ 16 日 (Fri) June 14-16	農学特別講義 (日本語) Special Lectures in Agricultural Science (Japanese)
7 月 11 日 (Tue) ~ 12 日 (Wed) July 11-12	生物生産科学特論 (日本語) Advanced Seminars in Bioproduction (Japanese)
7 月 13 日 (Thu) ~ 14 日 (Fri) July 13-14	生物資源科学特論 (英語) Advanced Seminars in Bioresources (English)
8 月 3 日 (Thu) ~ 5 日 (Sat) August 3-5	科学コミュニケーション (岩手) Science Communication Camp <Iwate University>
後 期 2nd semester	
10 月 3 日 (Tue) October 3	研究者倫理 (日本語) Ethics and Research (Japanese)
10 月 3 日 (Tue) October 3	研究者倫理 (英語) Ethics and Research (English)
11 月 15 日 (Wed) ~ 17 日 (Fri) November 15-17	農学特別講義 (英語) Special Lectures in Agricultural Science (English)
11 月 22 日 (Wed), 24 日 (Fri) November 22, 24	地域環境創生学特論 (英語) Advanced Seminars in Regional Environment Creation (English)

(※) 科学英語、研究力向上セミナーおよび東北農学セミナーの講義日程については、決定次第連大ホームページ等を通じて連絡します。

The schedule of Science Communication in English, Research Ability Improvement Seminars and Tohoku Agricultural Seminars will be available on the UGAS website when it is settled.

目 次

岩手大学大学院連合農学研究科の人材養成目的並びに 学生に修得させる知識・能力.....	1
岩手大学大学院連合農学研究科博士学位論文審査基準.....	2
博士（学術）の基準等に関する申合せ.....	3
標準修業年限（3年）未満で学位論文を提出する場合の基準.....	4
指導教員の主な業務.....	6
学生の履修申告の指導について.....	8
研究題目・研究指導計画届について.....	10
科目の履修例.....	12
教育課程表.....	14
講義概要＜必修科目＞.....	17
○特別演習.....	18
「学位論文進捗状況報告会」に関する申し合わせ.....	20
○特別研究.....	22
講義概要＜選択科目＞.....	25
○研究インターンシップ.....	26
○研究インターンシップ実施先別の流れ.....	29
○国際学会コミュニケーション.....	32
○社会人特別演習＜社会人カリキュラムのみ＞.....	35
○教育研究指導＜一般カリキュラムのみ＞.....	38
学生交通費等の支援について.....	40
岩手連大の成績評価ガイドライン.....	42

岩手大学大学院連合農学研究科の人材養成目的 並びに学生に修得させる知識・能力

岩手連大では、以下のように人材養成目的と学生に修得させる知識・能力を定め、これに沿った教育カリキュラムを用意しています。科目の履修にあたっては、これらを念頭に科目を選択してください。

連合農学研究科

連合農学研究科は、構成大学と連携大学院^{注)}、他連合農学研究科、海外の大学との協力による層の厚い教育体制により、寒冷圏農学分野における高度な専門知識を修得させることにより、国際水準を目指す先端的な研究を展開できる研究者、農学分野に高い関心と豊かな知識を持った大学教員や、柔軟な課題探究能力を備えた高度専門職業人を養成することを目的とする。

生物生産科学専攻

生物生産科学専攻は、農業生物および有用な生物資源の生産技術の開発およびその生理・生態や遺伝子資源に関する基礎と応用研究のなかで、生物生産環境の制御に関する知識や能力を修得させることにより、高度な課題と技術を探求し、展開できる能力を備えた人材を養成することを目的とする。

生物資源科学専攻

生物資源科学専攻は、有用生物資源や農業生物の機能や遺伝子および生産環境の制御に関する基礎、ならびにその生物機能の利用や生産技術の開発についての知識や能力を修得させることにより、バイオサイエンス分野の専門家として問題解決型の卓越した研究能力と幅広い見識を備えた人材を養成することを目的とする。

地域環境創生学専攻

地域環境創生学専攻は、生物資源の持続的な利用に関する環境要因の解明や地域資源の利活用に関する知識や能力を修得させることにより、一次産業を取り巻く環境、農山漁村の振興等に関わる技術者や地域リーダー等、持続可能な地域の環境創生の専門家となりうる高度で知的な素養のある人材を養成することを目的とする。

注) 岩手連大と連携協定を結んでいる研究機関のこと。具体的には、東北農業研究センター、岩手生物工学研究センター、青森県産業技術センターが該当する。

岩手大学大学院連合農学研究科博士学位論文審査基準

平成25年11月29日岩手大学大学院連合農学研究科代議員会了承

(審査体制)

学位論文の審査は、正1名及び副3名以上の審査委員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文で扱う問題設定が、農学関連分野の研究蓄積を踏まえて明確に示され、新規性、独創性を持つ学術論文としての意義が認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して利用した資料や文献について、正確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 学位論文の基礎となる主論文の公表

岩手大学大学院連合農学研究科の「学位論文審査等に関する細則」に定められた「学位論文の基礎となる学会誌等に発表された学術論文（主論文）」1編以上の内容が、提出された論文の中に含まれているか。

4. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、実験や調査あるいは資料収集などの研究方法は適切か。とくに研究倫理面や研究遂行上の安全性に配慮した研究方法が採られているか。

5. 論証方法や結論の妥当性

問題設定から結論にいたる論旨は、明確で実証的かつ論理的に展開されているか。

6. 論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。文献等の引用や図表の提示等論文としての体裁が整っているか。

(評価基準)

上記1～6の評価項目すべてを満たすものを学位論文として認める。

博士（学術）の基準等に関する申合せ

1. この申合せは、岩手大学大学院連合農学研究科の学位論文審査等に関する細則第15条第3項の規定に基づき、「学術」を付記する場合の基準等に関し、必要な事項を定めるものとする。
2. 博士（学術）の学位を授与する場合は、次の条件を満たすものとする。

なお、自専攻の「専攻別特論」を履修し単位を取得していることが望ましく、その他、単位の取得は条件としないが、選択科目の「東北農学セミナー」に関連するセミナーや講演に参加していることが望ましい。

 - (1) 学位論文の研究題目および内容が、農学分野の枠に収まらない研究と認められること。（例えば、学位論文の主要な部分を構成する論文の投稿先が、農学の枠を超えた学協会の学術誌である場合等）
 - (2) 全国の連合農学研究科の構成大学間で共同開催している選択必修科目の「農学特別講義（英語）」及び「農学特別講義（日本語）」から1単位を履修し単位を取得していること。
 - (3) 選択科目の中から他専攻の「専攻別特論」を1単位以上履修し単位を取得していること。
 - (4) 「研究者倫理」の講習を受講していること。
 - (5) 年1回（中間発表実施年度を除く）、進捗状況報告会を実施し、最終年次は中間発表会を実施していること。
 - (6) 該当学生を筆頭とする1編以上の投稿論文があること。
 - (7) 必修科目8単位及び選択科目から選択必修1単位を含め4単位以上履修し、計12単位以上の単位を取得するとともに、学位論文を提出し最終試験に合格すること。
3. 博士（学術）の決定プロセスは次のとおりとする。
 - (1) 該当学生は、入学時に主指導教員に研究テーマを提出する。
 - (2) 3名の指導教員は、1年次の学位論文研究進捗状況報告会（以下、進捗状況報告会という。）で該当学生の研究内容を確認し、博士（学術）の授与にふさわしいか協議する。
 - (3) 主指導教員は、該当学生の学位取得に向けて、博士（学術）に相応しい履修指導を行い、3指導教員は、研究指導を行う。
 - (4) 2年次以降年1回（中間発表実施年度を除く）、進捗状況報告会を実施し、3名の指導教員は博士（学術）相当の研究であることを確認し、主指導教員は、その確認結果を研究科長に報告する。
 - (5) 最終年次は中間発表会を実施し、3名の指導教員は博士（学術）相当の研究であることを確認し、主指導教員は、その確認結果を研究科長に報告する。
 - (6) 代議員会は、博士（学術）相当の研究であることを審査する。
 - (7) 該当学生は、博士（学術）の学位論文を申請する。
 - (8) 代議員会は、博士（学術）の学位論文申請受理について審査し、可決した場合は学位審査委員会を設置する。
 - (9) 学位審査委員会は、学位論文公開審査会及び最終試験を実施し、その結果を研究科長へ報告する。
 - (10) 学位審査委員会の主査は、研究科教授会に審査結果を報告し、研究科教授会は、投票により学位授与を決定する。

附 則

この申合せは、令和3年5月28日から施行する。

標準修業年限（３年）未満で学位論文を提出する場合（早期修了）の基準

下記の各号をすべて充足した者は、標準修業年限未満であっても学位論文を提出することができる。

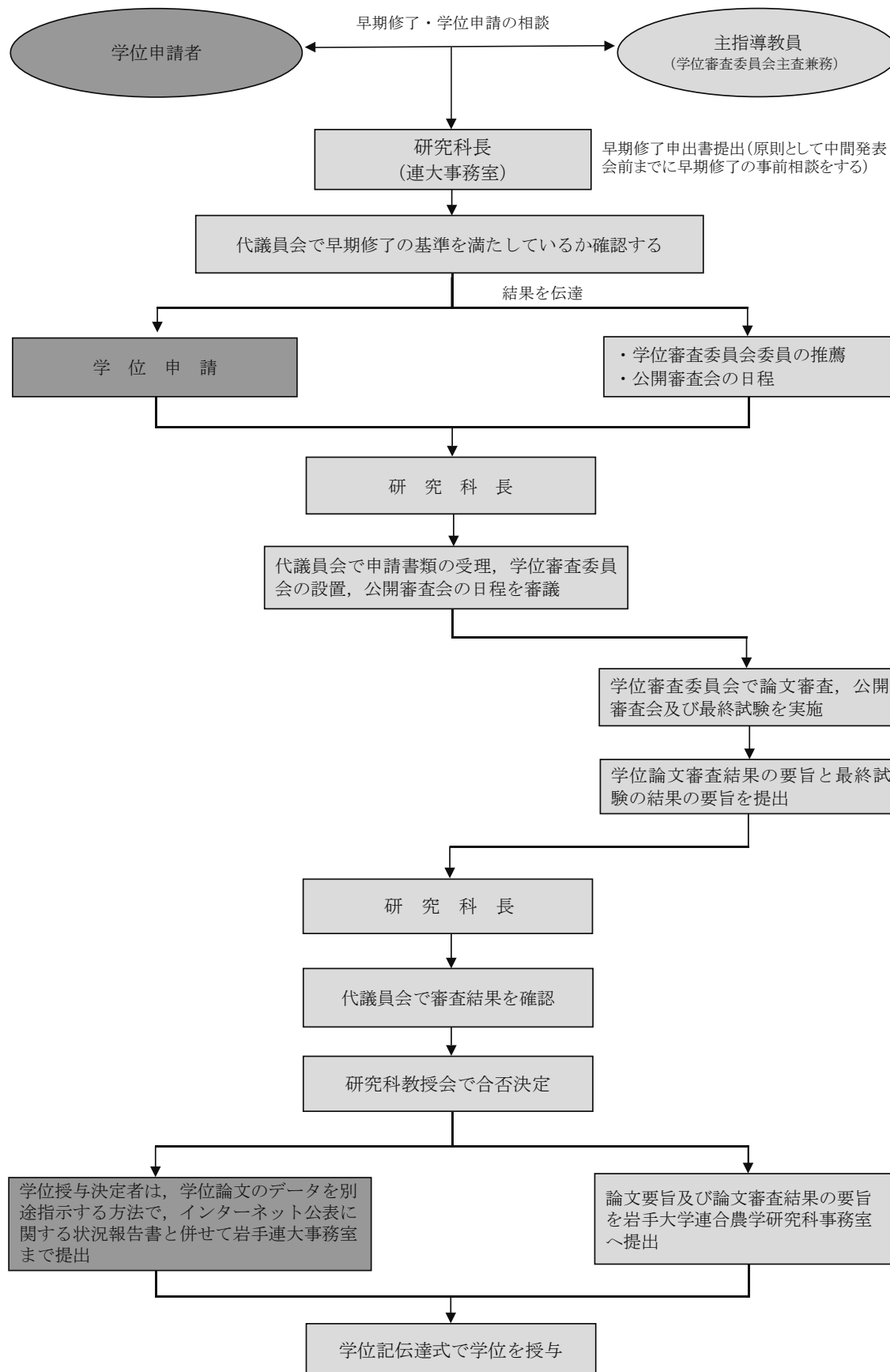
記

1. 岩手大学大学院連合農学研究科（以下「研究科」という。）の在学期間が１年（大学院修士課程を２年未満の在学期間をもって修了した者にあつては、当該課程における在学期間を含み３年）以上に達した者であること。（見込みを含む。）
 2. 申請しようとする学位の種類（農学あるいは学術）に応じ必要な授業科目を履修し、単位を修得した者であること。
 3. 学位論文審査に関する中間発表会を終了していること。
 4. 研究業績に関し、以下の（１）または（２）を満たしていること。
 - （１）学術論文（※）が５編以上あること。その中に、研究科在学中に掲載が決定した申請者を単独筆頭著者とする論文が含まれていること。
 - （２）学術論文が３編以上あり、その中に特に優れた論文が含まれていること。「特に優れた論文」は、研究科在学中に掲載が決定した申請者を単独筆頭著者とする論文であり、かつその論文が以下のいずれかに該当するものであること。
 - 1) 学会の学術賞、論文賞等を受賞した学術論文（ポスター賞、奨励賞等は含めない）。
 - 2) 当該分野における著名な研究者（学術賞等の受賞歴を有する者等。構成大学の教員は除く。）から申請者の研究業績が優れたものであることを証明する文書が提出されていること。
 - 3) 上記の１）または２）によらず、客観的に優れた論文であると認められる業績であること。
- （※）学術論文とは、学会誌等レフェリー制度のあるしかるべき刊行物に掲載した和文又は英文による、学位申請者を筆頭著者とする論文で、学位論文の基礎となる公表論文をさす。
5. 主指導教員が推薦する者であること。

附 則

この基準は、令和４年４月１日から施行する。

早期修了学位申請・審査フローチャート



指導教員の主な業務

【主指導教員】

1 年次

- 入学オリエンテーションの出席（入学時）
- 履修計画書作成時のアドバイスおよび提出（入学月の所定の期日まで）
- 講義「特別演習」進捗状況報告会の開催（1 年次・2 年次に開催）
 - ・主指導教員、第一・第二副指導教員の同席下で学生に学位論文の進捗状況を報告させ、アドバイス等を行う。終了後は進捗状況報告会実施報告書を提出

以下は学生が受講を希望する学年に随時

- 講義「研究インターンシップ」計画書の作成と提出 →成績報告書も一緒に提出
- 講義「国際学会コミュニケーション」実施報告書の作成と提出 →成績報告書も一緒に提出
- 講義「研究インターンシップ」と「国際学会コミュニケーション」に係る旅費の立替（運営費交付金で）
- 講義「教育研究指導」の実施計画と指導・成績評価
- 講義「社会人特別演習」の指導と成績評価



2 年次

- 講義「特別演習」進捗状況報告会の開催及び特別演習成績評価
 - ・主指導教員、第一・第二副指導教員の同席下で学生に学位論文の進捗状況を報告させ、アドバイス等を行う。終了後は進捗状況報告会実施報告書と成績報告書を提出



3 年次

- 中間発表会の開催（学位申請の9 ヶ月～3 ヶ月前まで）
 - ・指導教員以外の出席をできるだけ求めること
- 学位申請の指導・実施
- 「特別研究」の成績評価
- 公開審査会の開催

その他3年間を通しての業務

- 学生への諸連絡の徹底（奨学金・授業料免除・R A・長期履修制度等）
- 教員会議への出席（例年4～5月開催）
- 教授会への出席（9月と2月開催）

【副指導教員】

1 年次

○講義「特別演習」進捗状況報告会への出席（1 年次・2 年次に開催）

- ・主指導教員、第一・第二副指導教員の同席下で学生に学位論文の進捗状況を報告させ、アドバイス等を行う。終了後、主指導教員に所見を伝える。

※なお、第二副指導教員には、この指導に必要な旅費（1 泊 2 日程度）が支給される。
この旅費は学生を呼ぶための出張に使用することも可。

そのほか、特別演習の指導として、指導教員の判断で

- ・学生の元に出向いての指導
- ・学生を呼ぶ
- ・関係学会で学生を呼ぶ
- ・ウェブ会議、メールなどによる指導・助言 を行う



2 年次

○講義「特別演習」進捗状況報告会への出席（1 年次・2 年次に開催）

- ・主指導教員、第一・第二副指導教員の同席下で学生に学位論文の進捗状況を報告させ、アドバイス等を行う。終了後、主指導教員に所見を伝える。

※なお、第二副指導教員には、この指導に必要な旅費（1 泊 2 日程度）が支給される。
この旅費は学生を呼ぶための出張に使用することも可。

そのほか、特別演習の指導として、指導教員の判断で

- ・学生の元に出向いての指導
- ・学生を呼ぶ
- ・関係学会で学生を呼ぶ
- ・ウェブ会議、メールなどによる指導・助言 を行う



3 年次

○公開審査会への出席

○中間発表会への出席

学生の履修申告の指導について

岩手連大では、学部や修士課程と同様に学生は入学当初に履修申告手続きを行う必要があります。学部や修士課程と異なり、連大学生の履修申告は所定の履修計画届に記入して連大事務室まで提出してもらうこととしています。開講科目の中には、教育研究指導や研究インターンシップのように、主指導教員が指導学生に履修させるべきか判断すべきものが含まれていますので、主指導教員は履修申告の内容について必ずチェックをお願いします。

主指導教員は、学生から履修計画届を受け取り、履修科目のチェックを行い、主指導教員氏名欄に記名（PC 入力可）し所定の期日までに連大事務室までご提出ください。メール添付での提出も可能です。

履修計画届の学生からの受け取り方法は、学生からペーパーで受け取る場合や学生が連大ホームページから履修計画届の様式をダウンロードし必要事項を記入して主指導教員にファイルを転送する場合があります。

学生が履修申告しなかった科目でも、講義に出席しレポートなどの課題を確実に提出していることが確認できる場合は単位認定の対象にします。講義内容が未定等のため学生が選択科目で迷っている場合は、とりあえず選択4単位を満たした状態で履修申告させ、様子をみて追加履修できることを伝えてください。

履修計画届 / Course Registration

Enrollment Year 入学年度	年 月 入学	Student ID No. 学籍番号	
Major 専攻名	専攻	Specialty 連合講座名	連合講座
Student Name 学生氏名		Constituent University 配属大学	大学
Research Theme 研究題目			
Degree 学位	Ph.D. in Agriculture 博士(農学) ・ Ph.D. in Gakujutsu 博士(学術)		

以下のとおり、選択科目の履修を申告します。I register for the elective courses listed below.

	科目区分	一般	社会人	科目名	単位数	履修予定年次
	UGAS-wide/ Major-specific	Traditional student	Working student	Course	Credits	Year at UGAS (first, second or third year at UGAS)
必修 Compulsory	研究科共通 UGAS-wide	○	○	科学コミュニケーション Science Communication Camp	1	年次
	専攻共通 Major	○	○	特別演習 Advanced Course in XX	1	1 ~ 2 年次
		○	○	特別研究 Advanced Research in XX	6	1 ~ 3 年次
選択必修 (ここから1単位以上) Compulsory Elective (choose at least 1 unit from here)	研究科共通 UGAS-wide			農学特別講義 (英語) Special Lectures in Agricultural Science (English)	1	年次
				農学特別講義 (日本語) Special Lectures in Agricultural Science (Japanese)	1	年次
				科学英語 Science Communication in English	1	年次
	研究科共通 UGAS-wide			研究力向上セミナー Research Ability Improvement Seminars	1	年次
				研究インターンシップ Research Internship	2	年次
				国際学会コミュニケーション Communication for International Conferences	1	年次
				東北農学セミナー Tohoku Agricultural Seminar	1	年次
				社会人特別演習 Special Seminar for Working Student	1	年次
				生物生産科学特論 Advanced Seminars in Bioproduction	1	年次
				生物資源科学特論 Advanced Seminars in Bioresources	1	年次
				地域環境創生学特論 Advanced Seminars in Regional Environment Creation	1	年次
				教育研究指導 Education and Research Guidance in XX	1	年次

学生は履修する科目に○をつける

学生は履修予定年次 (1 ~ 3 の数字) を記入する

単位数Credits : 必修Compulsory 8 単位credits	選択Elective () 単位credits	合計Total () 単位credits
「選択必修科目」 [博士 (農学) の場合] ・ 選択科目のうち、 <u>農学特別講義 (英語) 及び農学特別講義 (日本語) から1科目以上</u> を履修する。 [博士 (学術) の場合] ・ 選択科目のうち、 <u>農学特別講義 (英語) 及び農学特別講義 (日本語) から1科目、他専攻の専攻別特論から1科目以上</u> を履修する。	「Compulsory Elective Courses」 [Ph.D. in Agriculture] ・ Take <u>one or more courses from Special Lectures in Agricultural Science (English)</u> . [Ph.D. in Gakujutsu] 1. Take <u>one or more courses from Special Lectures in Agricultural Science (Japanese) or Special Lectures in Agricultural Science (English)</u> . 2. Take <u>one or more courses from Advanced Seminars in XX (XX: Not same as student's Major.)</u> .	

学生は選択の単位数と合計の単位数を記入する

注1) 履修する科目に○を付け、履修予定年次を記入してください。修了に必要な単位数は、必修8単位、選択必修を含む選択4単位以上、合計12単位以上で
注2) 他の大学院の授業科目 (博士課程および博士後期課程) を履修する場合は合計2単位の範囲で、上記空欄行に科目名、科目区分 (博士課程科目など)、単位数、履修予定年次を記入してください。また、履修する前に別途指定の用紙によって申請してください。

Note 1: Indicate a circle in the box for the course you are planning to take and indicate the year at UGAS (1st, 2nd, 3rd year) at which you are planning to take the course. You need a total of at least 12 credits (minimum of 8 credits from compulsory courses and 4 credits from elective courses) to acquire a degree.
Note 2: When taking courses from the Graduate School of Engineering or master programs, use the blank rows at the bottom of this form to indicate the course name, program, etc., number of credits, and the year at UGAS at which you are planning to take the course (1st, 2nd, 3rd year).

主指導教員は、学生から提出された履修計画の内容を確認後、記名 (PC入力可) する

※主指導教員の先生方へ
履修科目をご確認の上、下記に記名をお願いいたします。

主指導教員氏名

研究題目・研究指導計画届について

岩手連大では、入学当初に研究題目・研究指導計画届を提出する必要があります。

主指導教員は、学生から研究題目・研究指導計画届を受け取り、研究題目、取得予定の学位、研究計画のチェックを行い、「教育・研究指導計画」欄に記入、記名（PC 入力で可）します。その後、第一、第二副指導教員へ回送し、それぞれ「教育・研究指導計画」欄に記入、記名をし、所定の期日までに連大事務室までご提出ください。メール添付での提出も可能です。

研究題目・研究指導計画届の学生からの受け取り方法は、学生からペーパーで受け取る場合や学生が連大ホームページから研究題目・研究指導計画届の様式をダウンロードし必要事項を記入して主指導教員にファイルを転送する場合があります。

なお、研究題目や研究計画に変更があった場合は連大ホームページから様式をダウンロードし、必要事項を記入の上、岩手連大事務室まで提出してください。

年(year) 月(month) 日(day)

研究題目・研究指導計画届

The form of Research title・Research guidance plan

学生が記入

入 学 時 期 Enrollment Year	entered in (year)(month)	学 籍 番 号 Student ID Number	番
専 攻 ・ 連 合 講 座 Major・Specialty	専攻 Major	連合講座 Specialty	
学 生 氏 名 N a m e			
研 究 題 目 Research Theme			
取得を目指す学位 D e g r e e	博士（農学） ・ 博士（学術） Ph.D. in Agriculture ・ Ph.D. in Gakujutsu		
研 究 計 画 Research Plan			

指導教員は、学生が記入した研究題目、研究計画を確認する。

主指導教員・副指導教員が記入

教育・研究指導計画				
主指導教員				
	所属	大学	氏名	
第一副指導教員				
	所属	大学	氏名	
第二副指導教員				
	所属	大学	氏名	
指導教員を補助する教員（補助教員）		氏名		
研究指導を委託する場合の派遣機関等名				

主指導、第一、第二副指導教員は、それぞれ教育・研究指導計画を記入し、記名（PC入力可）する。

科目の履修例(一般カリキュラム)

連合農学研究科(博士課程)では、教育課程表に示した科目を12単位以上(必修8単位、選択4単位以上)修得することが修了要件になっています。選択科目の履修は、選択必修科目以外は自由に組み合わせて受講できます。以下は履修例です。

必修科目

以下の科目は全員が必ず履修する必要があります。

研究科共通科目	科学コミュニケーション	1単位
専攻共通科目	〇〇学特別演習	1単位
専攻共通科目	〇〇学特別研究	6単位
計		8単位

選択科目(選択必修科目を含む4単位以上)

《選択必修科目》

〔博士(農学)の場合〕

選択科目のうち、農学特別講義(英語)及び農学特別講義(日本語)から1科目を履修する。

〔博士(学術)の場合〕

選択科目のうち、農学特別講義(英語)及び農学特別講義(日本語)から1科目、他専攻の専攻別特論から1科目以上を履修する。

1. 幅広い専門分野に触れ研究の視野を広めたい学生

農学特別講義(日本語)	1単位
生物生産科学特論	1単位
生物資源科学特論	1単位
地域環境創生学特論	1単位など

2. 国際性を養うため科学英語の能力を身につけたい学生

農学特別講義(英語)	1単位
科学英語	1単位
所属専攻の〇〇学特論	1単位
国際学会コミュニケーション	1単位など

3. 外国人留学生

農学特別講義(英語)	1単位
科学英語	1単位
研究インターンシップ	2単位
国際学会コミュニケーション	1単位など

科目の履修例(社会人カリキュラム)

社会人学生も、一般学生と同様に教育課程表に示した科目を12単位以上(必修8単位、選択4単位以上)修得することが修了要件になっています。連大の講義は、社会人学生が履修しやすいように、ほぼすべての講義を集中形式で開講します。また、特別演習、特別研究についても、大学院設置基準第14条特例による時間外の指導が受けられるように配慮します。その際、主指導教員は事前に学生と研究計画、スケジュール等を打ち合わせてください。

また、職場の勤務条件により、3年間での修了が困難な場合は長期履修制度を活用し、3年分の授業料で最大5年間の履修計画を立て課程を修了することができます。

必修科目

以下の科目は全員が必ず履修する必要があります。

研究科共通科目	科学コミュニケーション	1単位
専攻共通科目	〇〇学特別演習	1単位
専攻共通科目	〇〇学特別研究	6単位
計		8単位

選択科目(選択必修科目を含む4単位以上)

《選択必修科目》

〔博士(農学)の場合〕

選択科目のうち、農学特別講義(英語)及び農学特別講義(日本語)から1科目を履修する。

〔博士(学術)の場合〕

選択科目のうち、農学特別講義(英語)及び農学特別講義(日本語)から1科目、他専攻の専攻別特論から1科目以上を履修する。

1. 国・地方・民間の研究員

農学特別講義(日本語)	1単位
所属専攻の〇〇学特論	1単位
他専攻の〇〇学特論	1単位
社会人特別演習	1単位など

2. 大学等教職員

農学特別講義(英語)	1単位
農学特別講義(日本語)	1単位
科学英語	1単位
研究力向上セミナー	1単位など

3. その他、行政職、農業者、コンサルタント等

農学特別講義(日本語)	1単位
生物生産科学特論	1単位
生物資源科学特論	1単位
地域環境創生学特論	1単位など

岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程）教育課程表 （一般カリキュラム）

（2023 年 4 月現在）

	専攻	科目名	単位数	講義形式	必修選択別	担当教員	履修予定年次		
							1年次	2年次	3年次
必修（ここから8単位）	研究科共通	科学コミュニケーション	1	合宿	●	資格教員等	◎		
	生物生産科学	生物生産科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	
		生物生産科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎
	生物資源科学	生物資源科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	
		生物資源科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎
	地域環境創生学	地域環境創生学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	
		地域環境創生学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎
選択科目（ここから選択必修科目を含む4単位以上を選択）	研究科共通	農学特別講義（英語）	1	遠隔	★	全国の連合農学研究科教員	◎		
		農学特別講義（日本語）	1	遠隔		全国の連合農学研究科教員	◎		
		科学英語	1	遠隔	○	外国人教員	◎		
		研究インターンシップ	2	訪問	○	研究機関等の研究員	◎		
		国際学会コミュニケーション	1	訪問	○	主指導教員		◎	
		東北農学セミナー	1	訪問等	○	資格教員・外部講師	◎		
		研究力向上セミナー	1	遠隔	○	資格教員・外部講師	◎	◎	
	生物生産科学	生物生産科学特論	1	遠隔	○/★※	各専攻資格教員	◎		
		生物生産科学教育研究指導	1	教室	○	主指導教員	◎		
	生物資源科学	生物資源科学特論	1	遠隔	○/★※	各専攻資格教員	◎		
		生物資源科学教育研究指導	1	教室	○	主指導教員	◎		
	地域環境創生学	地域環境創生学特論	1	遠隔	○/★※	各専攻資格教員	◎		
		地域環境創生学教育研究指導	1	教室	○	主指導教員	◎		

注 1）遠隔：多地点制御遠隔講義システムやオンライン等による講義・演習。

訪問：研修先、国際学会開催地等への訪問。

対面：教員によるマンツーマン指導。合宿：合宿形式の講義・演習。教室：教室での授業。

注 2）◎：受講予定年次は目安を示したもので、指導教員と相談した上で適宜変更できます。

注 3）他の研究科（博士課程および博士後期課程）の科目での代替可能単位数は2単位。

注 4）●：必修科目、★：選択必修科目（※博士〔学術〕取得希望者は、他専攻の専攻別科学特論から1科目以上を履修）、○選択科目

岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程）教育課程表 （社会人カリキュラム）

（2023 年 4 月現在）

	専攻	科目名	単位数	講義形式	必修選択別	担当教員	履修予定年次		
							1年次	2年次	3年次
必修（ここから8単位）	研究科共通	科学コミュニケーション	1	合宿	●	資格教員等	◎		
	生物生産科学	生物生産科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	
		生物生産科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎
	生物資源科学	生物資源科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	
		生物資源科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎
	地域環境創生学	地域環境創生学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	
		地域環境創生学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員	◎	◎	◎
選択科目（ここから選択必修科目を含む4単位以上を選択）	研究科共通	農学特別講義（英語）	1	遠隔	★	全国の連合農学研究科教員	◎		
		農学特別講義（日本語）	1	遠隔		全国の連合農学研究科教員	◎		
		科学英語	1	遠隔	○	外国人教員	◎		
		研究インターンシップ	2	訪問	○	研究機関等の研究員	◎		
		国際学会コミュニケーション	1	訪問	○	主指導教員	◎	◎	
		社会人特別演習	1	職場	○	主指導教員	◎	◎	
		東北農学セミナー	1	訪問等	○	資格教員・外部講師	◎		
		研究力向上セミナー	1	遠隔	○	資格教員・外部講師	◎	◎	
	生物生産科学	生物生産科学特論	1	遠隔	○/★※	各専攻資格教員	◎		
	生物資源科学	生物資源科学特論	1	遠隔	○/★※	各専攻資格教員	◎		
	地域環境創生学	地域環境創生学特論	1	遠隔	○/★※	各専攻資格教員	◎		

注1）遠隔：多地点制御遠隔講義システムやオンライン等による講義・演習。

訪問：研修先、国際学会開催地等への訪問。

対面：教員によるマンツーマン指導。合宿：合宿形式の講義・演習。教室：教室での授業。

注2）受講予定年次は目安を示したもので、指導教員と相談した上で適宜変更できます。

注3）他の研究科（博士課程および博士後期課程）の科目での代替可能単位数は2単位。

注4）●：必修科目、★：選択必修科目（※博士〔学術〕取得希望者は、他専攻の専攻別科学特論から1科目以上を履修）、○選択科目

岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程）教育課程表
（デュアルディグリープログラムカリキュラム）

（2023 年 4 月現在）

	大学	専攻	科目名	単位数
必修 （ここから9単 位）	岩手大学連合 農学研究科	研究科共通	科学コミュニケーション	1
			農学特別講義（英語）	1
		生物生産科学	生物生産科学特別演習	1
			生物生産科学特別研究	6
		生物資源科学	生物資源科学特別演習	1
			生物資源科学特別研究	6
		地域環境創生学	地域環境創生学特別演習	1
			地域環境創生学特別研究	6
必修	サスカチュ ワン大学	Plant Science	PLSC 990 graduate seminar course	0
			GPS 960 Introduction to Ethics and Integrity Course	0
選択（必要に 応じて）	サ スカ チュ ワン 大 学	Plant Science	Online Safety Orientation Course各種	0
			GPS 981 Academic Preparation for International Graduate Students	0
			GPS 984 Thinking Critically: Professional Skills for Global Citizens	0
			GPS 989 Introduction to University Teaching	0
選択（サスカチュ ワン大学科目を含め、 ここから4単位以上）	岩手大学連合 農学研究科	研究科共通	科学英語	1
			研究インターンシップ	2
			国際学会コミュニケーション	1
		生物生産科学	生物生産科学特論*	1
		生物資源科学	生物資源科学特論*	1
		地域環境創生学	地域環境創生学特論*	1
	（サスカチュ ワン大学 3単位以上）	Plant Science	PLSC 803.3 Advanced Plant Breeding	3
			PLSC 804.3 Processing and Analysis of Grain Crops	3
			PLSC 812.3 Physiological Plant Ecology	3
			PLSC 814.3 Physiology of Yield Formation	3
			PLSC 815.3 Applied Plant Cytogenetics	3
			PLSC 816.3 Quantitative Genetics	3
			PLSC 825.3 Applied Plant Biotechnology	3
			PLSC 827.3 Molecular Basis of Grain Quality	3
			PLSC 833.3 Advanced Plant Ecology	3
			PLSC 835.1 Statistical Foundations	3
			PLSC 836.1 Experimental Analysis	3
			PLSC 837.1 Advanced Linear Modelling	3
			PLSC 840.3 Climate Smart Agriculture	3
			PLSC 841.3 Advanced Fruit Growing	3
			PLSC 865.3 Plant Abiotic Stress	3
			PLSC 880.3 Introduction to Plant Disease Epidemiology	3
			PLSC 881.3 Host-Pathogen Interactions and Breeding for Disease Resistance in Plants	3
			PLSC 898.3 Ecology of Weeds and Invasive Plants	3
			PLSC 898.3 Plant Genomes	3
			PLSC 898.3 Crop Imaging and Digital Agriculture	3
			PLSC 898.3 Evolutional Genomics and Plant Biology	3
			PLSC 898.3 Plant-Soil Feedbacks in Agricultural and Natural Systems	3

注1）*：博士〔学術〕取得希望者は、他専攻の専攻別科学特論から1科目以上が要履修

講義概要

<必修科目>

○特別演習

年度・学期		2023・通年	単位数	1			
授業科目名		生物生産科学特別演習／生物資源科学特別演習／地域環境創生学特別演習					
授業科目名(英語)		Advanced Course in Bioproduction/Bioresources/Regional Environment Creation					
主な対象学生		1～2 年次					
科目番号		(生物生産科学)UBP821D、(生物資源科学)UBR821D、(地域環境創生学)UEC821D					
主な使用言語		日本語または英語					
履修上の条件							
担当教員情報	氏名(カナ)	主指導教員					
	氏名(英語)	Major supervisor					
	所属						
	相談可能時間	主指導教員が適宜設定。					
他の担当教員		第 1 副指導教員および第 2 副指導教員					
キーワード		学位論文研究					
学位授与方針との関係		連合農学研究科のディプロマポリシーのうち、とくに「研究遂行力」と深く関係し、主指導教員および副指導教員から研究指導を受けることで研究遂行能力を向上させる。 学位授与の方針					
授業の目的		主として第一副指導教員、第二副指導教員が学位論文の作成を多面的に支援するための指導を行い、履修者の専門研究分野における知識の広がりや深み、研究遂行能力の向上を目指します。					
到達目標		複数の指導教員から研究指導を受けることで、研究遂行能力の基本的素養を体得することを目標とします。					
授業の概要		主として履修者の第一副指導教員及び第二副指導教員が、それぞれの研究分野に基づいて履修者の論文研究課題に即した研究指導を行う内容です。主指導教員が指導内容を計画し、副指導教員が中心となり指導を行います。学生には毎年、進捗状況報告会で学位論文の進捗状況について発表を行っていただき、指導教員陣からの助言を得ます。報告会での助言の他に、指導教員陣の判断で学会参加時等に指導を行う場合もあります。					
授業の形式		進捗状況報告会は、原則としてオンラインで実施します。この他、対面での実施、メール等による指導を行う場合があります。					
授業時間外の学習／予習・復習		主指導教員、副指導教員の指示のもとに実施します。					
成績評価方法(評価の観点)と基準		評価方法	割合	評価の観点			
				関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
		研究プレゼンテーション	50%	◎	◎	◎	◎
		質疑への対応	50%	◎	◎	◎	◎
評価の基準		主として進捗状況報告会での発表内容及び指導の過程での状況を含め第一副指導教員と第二副指導教員の所見を元に主指導教員が総合的に評価します。					
履修における留意点		この科目は、特別研究と同様に指導教員が履修者の学位論文の作成を直接指導するものです。 演習は、1 年次および 2 年次の 2 年間でを行うことを標準としますが、指導教員と相談の上、2 年間を超えて演習を行うことも可能です(長期履修生等)。 第二副指導教員からの指導は、教員が所属する大学に出かけて講義や研究指導を受ける場合があります。					

○指導教員への補足説明

専攻別特別演習の指導については、1・2年次の進捗状況報告会の開催及びその事前・事後指導をもって特別演習とします。なお、進捗状況報告会は、遠隔講義システムやオンラインでの実施を基本とします。また、報告会に加えて、これまでどおり学会等に参加した際に指導することも可能です。

提出書類と提出時期について

1年次

進捗状況報告会終了後、主指導教員は副指導教員からの所見を元に「学位論文進捗状況報告会実施報告書」（様式11）を作成し、岩手連大事務室に提出してください。

※長期履修生等で2年間を超えて演習を行う場合は、特別演習終了時期まで毎年、「進捗状況報告会実施報告書」を提出してください。

2年次

進捗状況報告会終了後、「学位論文進捗状況報告会実施報告書」と一緒に成績報告書を提出してください。成績報告書の提出をもって、特別演習の単位を認定します。

※「学位論文進捗状況報告会実施報告書」及び「成績報告書」の様式は、岩手連大 HP でダウンロードできます。

特別演習の流れ

- ① 入学後、主指導教員は副指導教員と相談し、指導内容や報告会の実施時期を計画してください。
- ② 1、2年次にそれぞれ、指導教員陣が全員参加しての進捗状況報告会を行い、学生の発表に対して、指導教員陣からアドバイスを行います。
- ③ 主指導教員は、各進捗状況報告会終了後に副指導教員・自分の所見をもとに「学位論文進捗状況報告会実施報告書（様式11）」を作成し、毎年、連大事務室に提出してください。
2年次には成績評価を行い、進捗状況報告会実施報告書と一緒に成績報告書も提出してください。

※進捗状況報告会が終了次第、随時報告していただいても構いません。

連大事務室からは、参考に特別演習終了予定時期である2年次末（4月入学者は2月、10月入学者は8月）に主指導教員にメールで連絡します。

参考：

主指導教員及び第一副指導教員は俸給の調整額を適用する教員として、「研究指導及び論文指導を通じて2単位（1単位は15時間とする）相当以上を担当する者」（3大学間の確認事項、連大関係規則等15頁）とされていますので、それにふさわしい学生指導を特別演習、特別研究のなかで実施するようにしてください。副指導教員2名で15時間程度の指導を目安としてください。

第二副指導教員による研究指導は、今まで通り原則として教員が学生の配属大学へ出向いて行いますが、場合によっては第二副指導教員の旅費の範囲で学生を呼び寄せ指導することができます。

「学位論文研究進捗状況報告会」に関する申し合わせ

（趣旨）

博士課程学生の学位論文研究の進捗状況を確認し修業年限以内に修了できるように、年1回（中間発表会実施年度を除く）、当該学生とその主指導教員および2名の副指導教員、計4名の参加により、学生に適切な助言・指導を行う場として、学位論文研究進捗状況報告会（以下、進捗状況報告会）を開催する。

1. 実施時期

進捗状況報告会は学生ごとに年1回開催することとし、開催月日は問わない。

2. 実施責任者

当該学生の主指導教員とする。

3. 実施場所

学生とその指導教員3名が参加し得る条件があれば、開催場所は問わない。また、多地点遠隔講義システムを利用して、それぞれの大学にしながら進捗状況報告会を開催してもよい。

4. 実施方法

進捗状況報告会は学生ごとに実施するものとするが、複数の学生とその指導教員が集まり合同で開催してもよい。

5. 実施内容

進捗状況報告会では、まず学生から学位論文研究の内容と進捗状況、今後の予定などについて報告させ、それに対して各指導教員から助言・指導を行う内容で実施する。時間数は特に定めないが、学位論文中間発表会と同程度の時間で行うことを目安とする。

6. 「専攻別特別演習」（必修、1単位）との関係

当該学生の入学1年次および2年次の進捗状況報告会で第1副指導教員および第2副指導教員が行った助言・指導の内容は、そのまま専攻別特別演習（必修、1単位）を実施したものとみなす。

7. 研究科長への報告

主指導教員は、実施期日が決定され次第、研究科長へそれを報告するとともに、終了後は速やかに学位論文研究進捗状況報告書（別紙）を提出する。なお、2年次以降は取得予定の学位を選択し、報告書を提出する。

学位論文研究進捗状況報告会 実施報告書

年 月 日

岩手大学大学院連合農学研究科長 殿

連合講座名 ()
主指導教員氏名 ()

下記のとおり学位論文研究進捗状況報告会を実施しましたので、報告します。

実施年月日(時間) : 年 月 日 曜日
時 分 ~ 時 分

実施場所 : ()

参加者 : 発表学生 ()

取得予定の学位 : 博士(農学)・博士(学術) (2年次以降の報告時に選択すること。)

指導教員 : () () () ()

実施形態など特記事項 : ()

指導教員による所見 :

第1副指導教員による評価と指導内容 :

第2副指導教員による評価と指導内容 :

主指導教員による総括所見 :

(注) 博士(学術)の取得を予定している場合は、主指導教員による総括所見欄に博士(学術)に値する研究内容であると判断した理由と今後の指導方針を記載すること。

○特別研究

年度・学期		2023・通年	単位数	6			
授業科目名		生物生産科学特別研究／生物資源科学特別研究／地域環境創生学特別研究					
授業科目名(英語)		Advanced Research in Bioproduction/Bioresources/Regional Environment Creation					
主な対象学生		1～3 年次					
科目番号		(生物生産科学)UBP899D、(生物資源科学)UBR899D、(地域環境創生学)UEC899D					
主な使用言語							
履修上の条件							
担当教員情報	氏名(カナ)	主指導教員					
	氏名(英語)	Major supervisor					
	所属						
	相談可能時間	主指導教員が適宜設定。					
他の担当教員							
キーワード		学位論文研究					
学位授与方針との関係		連合農学研究科のディプロマポリシーのうち、とくに「研究遂行力」と深く関係し、主指導教員から研究指導を受けることで研究遂行能力の基本的素養を身につける。					
授業の目的		履修者の取り組んでいる研究(学位論文研究)の内容について、主指導教員から多面的な指導を受け、論文の完成を目指す過程を通して研究遂行能力の修得を目的とします。					
到達目標		自らの研究課題について、主指導教員の指導を受けながら自立的に研究を遂行できる基本的な能力を身に付けることを目標とします。					
授業の概要		主指導教員が、学生の学位論文の作成にあたり継続的に研究指導を行うものです。学生は主指導教員と相談して立てた計画に従って研究を遂行します。					
授業の形式		原則として対面形式で実施します。					
授業時間外の学習／予習・復習		主指導教員、副指導教員の指示のもとに実施します。					
成績評価方法(評価の観点)と基準		評価方法	割合	評価の観点			
				関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
		研究の取り組み状況	60%	◎	◎	◎	◎
		得られた研究成果等	40%		◎	◎	◎
評価の基準		学位論文研究の取り組み状況、得られた研究成果等を総合して評価します。					
履修における留意点		この科目は、学位論文作成指導の本体をなすものです。1年次から学位論文完成に至るまで、主指導教員と日常的に相談し、指導を受けるよう心がけてください。					

指導教員への補足説明

この科目は、学位論文作成指導の本体をなすもので、主指導教員が標準修業年限を通して研究指導の計画を立案し、当該学生を指導するものです。成績評価は、中間発表会での第一、第二副指導教員の意見も参考にしつつ、主指導教員が最終的な評価を行い、成績報告書にて単位認定の結果をお知らせください。

成績報告について

特別研究（6単位）は、平成30年度入学者から、主指導教員により成績報告書を提出いただくことで、研究科教授会での学位授与に関わらず、単位が付与されます。

補足）特別演習と特別研究の区分け

特別演習と特別研究は、ともに当該学生の博士論文作成指導に直接結びつく科目であり、實際上、その区分けを厳密に行うことは困難な場合が多いことから、実施にあたっては主指導教員の柔軟な判断をお願いします。

特別研究単位認定の流れ

- ① 主指導教員は、論文作成に当たり、学生に指導を行います。
- ② 主指導教員は、成績評価を行い、成績報告書を連大事務室に提出してください。

岩手大学大学院連合農学研究科の学位論文審査等に関する中間発表会の申合せ

(趣旨)

学位論文の中間発表会は、連合農学研究科における学位申請の要件として、学位論文提出予定者に論文の課題、研究手法、論文の構成、期待される結論などを報告させ、それに対する適切な助言と指導を行うことによって、学生が水準の高い学位論文を計画的に取りまとめられるように実施するものである。

1. 実施時期

中間発表会は、学位論文提出の9ヶ月前から3ヶ月前までの期間におけるしかるべき時期に実施することを原則とする。

2. 実施責任者

主指導教員とする。

3. 実施場所と実施期日

実施責任者が学生の配属状況を考慮して構成大学等のいずれかを実施場所として選定し、関係者と連絡調整して期日を決定する。

4. 実施体制

発表する学生の主指導教員、第一、第二副指導教員はもれなく出席することを原則とする。

5. 中間発表会の事前報告

実施責任者は、中間発表会の1ヶ月前までに、発表者氏名・実施場所・実施期日・専攻名・連合講座名を連合農学研究科事務室に報告するものとする。

6. 中間発表会報告書

実施責任者は、中間発表会を実施後、速やかに学位論文中間発表会報告書（別紙）を提出する。取得予定の学位を、博士（学術）を選択した場合は代議員会で博士（学術）相当の研究であることを審議・確認する。

附 則

この申合せは、平成16年4月1日から施行する。

この申合せは、平成25年4月1日から施行する。

この申合せは、平成27年4月1日から施行する。

この申合せは、令和2（2020）年4月1日から施行する。

講義概要

<選択科目>

○研究インターンシップ

年度・学期		2023・通年	単位数	2			
授業科目名		研究インターンシップ					
授業科目名(英語)		Research Internship					
主な対象学生		1 年次					
科目番号		UAL711D					
主な使用言語		英語または日本語					
履修上の条件		必ず指導教員と相談し、許可を得ること。					
担当教員情報	氏名(カナ)	原科 幸爾(ハラシナ コウジ)					
	氏名(英語)	HARASHINA Koji					
	所属	連合農学研究科(岩手大学)					
	相談可能時間	メールで事前にアポイントメントを取ることで随時設定します。					
他の担当教員		受け入れ先の指導教員他					
キーワード		研究機関、研修					
学位授与方針との関係		連合農学研究科のディプロマポリシーのうち、とくに「学際的思考力」と「異文化コミュニケーション力」と深く関係し、研究の視野とコミュニケーション力を修得する。					
授業の目的		研修先となる他の研究機関での実務を体験し、意見交換や成果発表会での議論を通じて、研究の視野を広げるとともに研究者としての適性を確認し、研究の進め方や姿勢について学びます。					
到達目標		他の研究機関の研究者との交流を通じてコミュニケーション力を向上させるとともに、研究の視野を広げ、参考にすべき研究の進め方等について修得することを目標とします。					
授業の概要		研修先の研究機関で取り組んでいる研究テーマの説明を受け、研究の一部を分担しながら研究の視野を広げます。実施場所は岩手連大と連携協定を結んでいる研究機関(東北農業研究センター、岩手生物工学研究センター、青森県産業技術センター、カナダ・サスカチュワン大学)をはじめ、主指導教員が申請し連大(代議員会)が認めた教育研究機関です。 インターンシップ期間終了後、研修先で体験した研究内容について大学でさらに最近の成果等の文献を読み、レポートを作成するとともに、研究インターンシップ報告会で報告、議論します。					
授業の形式		主として、インターンシップ先の研究機関での研修。					
授業時間外の学習／予習・復習		事前に受け入れ先の研究機関の概要と受入研究者の研究内容を把握しておくとともに、研修中は日誌を付けるなどして、その日に学んだ内容を復習する。					
成績評価方法(評価の観点)と基準		評価方法	割合	評価の観点			
				関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
		研修への参加状況	50%	◎	◎	◎	◎
		報告会プレゼンテーション	20%	◎	◎	◎	
評価の基準		レポート	30%		◎	◎	
		受講者の提出したレポート及び受入研究者からの報告書を元に受講者の研究への取り組み姿勢や問題解決に向けた提言内容、報告会におけるプレゼンテーションの内容を総合して評価します。					
履修における留意点		・インターンシップ実施要件や保険加入については P27 の「インターンシップ実施上の注意」をご覧ください。 ・学位申請後の旅費の補助及び単位認定は行いません。 ・インターンシップ先の種別によって進め方が異なります。詳細は P29-30 をご覧ください。 ・旅費の支給額・範囲については P40-41 をご覧ください。					

研究インターンシップ実施上の注意

1. 研究インターンシップの実施要件

1) インターンシップ先について

学生の配属先(大学および連携機関)と同一の研究機関をインターンシップ先にはできません。また、他の大学・研究機関であっても第2副指導教員の所属する研究室(部署)では研修できません。岩手連大との連携機関以外で研究インターンシップを希望する場合、主指導教員は、受入先の下承を得た上で、国外の機関は実施希望日の6ヵ月前まで、国内の機関は3ヶ月前までに連大事務室へ必要書類を提出してください。

2) 研修期間

国内外ともに研究インターンシップの期間は2週間(土日を除き、実質10日間)以上が必要です。ただし、サスカチュワン大学では、受け入れの都合上4週間が標準となっています。

3) 研修の内容について

研究インターンシップは、研究の一部を分担しながら研究の視野を広げてもらうことを目的にしていますので、研修先での学位論文研究の調査や実験は、研修の内容に含まれません。学生の研究に必要な実験や調査は、「特別研究」の内容の一部とみなされます。研修先が行う研究に触れることで視野を広げることを主たる目的とした研究インターンシップの実施にご留意ください。ただし、上記の研修目的が達成されているのであれば、副次的に学位論文研究に関わる調査や実験を研修先で行うことは差し支えありません。

2. 保険への加入について

研究インターンシップを受講する際は学生教育研究災害傷害保険(学研災)・学研災付帯賠償責任保険への加入を義務づけていますので、学生に必ず加入するようご指導ください。

3. 学位申請後の旅費の補助及び単位認定は行いません。

4. インターンシップ先の種別によって進め方が異なります。詳しいインターンシップの流れについては29～30ページをご覧ください。

5. 旅費の支給額・範囲については40～41ページをご覧ください

指導教員への補足説明

研究インターンシップは実施場所によって手続きが異なります。次ページ以降の説明に従って手続きをしてください。

1) 連携協定を結んでいる研究機関以外で研究インターンシップを実施する場合

主指導教員が受入機関と連絡を取り、研究インターンシップ実施のすべての段取りを整えていただくことになります。また、その教育研究機関が研究インターンシップの実施にふさわしいかどうかは、事前に代議員会で実施計画書（主指導教員作成が作成するもの。様式4）及び受入教員の経歴等の審査（確認）を受けることになっていますのでご注意ください。海外の機関の場合は受入先の承諾を得て6ヵ月前まで、国内の機関は3ヶ月前までに連大事務室へ連絡してください。

提出書類

- ・研究インターンシップ実施計画書（様式4）
- ・受入教員の略歴書
- ・学生の履歴書

2) 成績評価について

研究インターンシップ終了後、学生レポート及び受入教員の実施報告書を基に、主指導教員の責任で成績評価を行っていただきます。

提出書類

- ・成績報告書
- ・学生レポート
- ・受入教員の報告書

3) 交通費等の支援について

連携協定を結んでいる研究機関へ派遣する場合は交通費及び宿泊費を、協定機関以外の場合は交通費のみ支給しております。交通費等は、11月末で締切、1月に主指導教員の研究費として配分しますので、学生の旅費は主指導教員が運営費で立て替えてお支払いください。

海外の場合は、交通費の上限を15万円とします。

研究インターンシップ終了後に「旅行命令伺」等の交通費の明細写しを連大事務室に提出してください。

※交通費については、配属大学住所から受入機関までと、居住地から受入機関までとを比べて、近距離である方を基に計算した額を支給します。

（自家用、公用車等は支給対象外です。）

サスカチュワン大学での研究インターンシップの流れ

※旅費の支給や受入側の条件もあるため、連大で事前に参加者を調整します。

- ① 連大事務室は、募集要項を HP で公表します（11月頃）。
- ② 学生は、応募書類を連大事務室へ提出します。
- ③ 連大事務室は、応募者の情報をサスカチュワン大に伝え、受入側の条件を主として最終的に参加者を3名程度に絞り込みます。
- ④ 連大事務室から、応募者へ選考結果を通知します（3月頃）。
- ⑤ 学生には、派遣前に英語力強化講習・海外研究インターンシップ説明会を実施します（実施1ヶ月前）

※留学生はビザの発行に時間がかかるため、速やかにビザの手続きをするよう指導をお願いします。

- ⑥ 学生は、サスカチュワン大学でインターンシップを実施します（6～8月頃）。学生には、終了時に受入先の指導教員からインターンシップ実施報告書を作成してもらうよう指示しています。
- ⑦ 学生は、11月の報告会で発表後、以下の書類を1ヶ月以内に主指導教員に提出します。
 - ・研究インターンシップ実施報告書（所定様式）
 - ・受入教員の報告書
- ⑧ 主指導教員は、成績評価後、以下の書類を連大事務室に提出してください。
 - ・成績報告書
 - ・学生からの研究インターンシップ実施報告書
 - ・受入教員の報告書

国内の連携機関での研究インターンシップの流れ

- ① 連大事務室は、募集要項を HP で公表します（6月頃）
- ② 受講を希望する学生は、各機関のHPに掲載されている研究テーマ等を参考に希望する研究室（部署・指導を受けたい研究員）を選定し、希望する研修内容と日程を事前に受入研究者に相談し研修受入の承諾を得ます。（事前相談の結果、センター側の判断で受入を断られる場合もあります）
- ③ 受講を希望する学生は、②の結果を連大事務室へ報告します。
- ④ 連大事務室より改めて受入先機関へ学生の受入を依頼します。
- ⑤ 学生は、受入機関でインターンシップを実施します（7～10月頃）。学生には、終了時に受入先の研究者からインターンシップ実施報告書を作成してもらうよう指示しています。

※主指導教員経費（運営費）より旅費の手続き・支給を行います。
- ⑥ 学生は、11月または4月の報告会で発表後、以下の書類を1ヶ月以内に主指導教員に提出します。
 - ・研究インターンシップ実施報告書（所定様式）
 - ・受入研究者の報告書
- ⑦ 主指導教員は、成績評価後、以下の書類を連大事務室に提出してください。
 - ・成績報告書
 - ・学生からの研究インターンシップ実施報告書
 - ・受入研究者の報告書

連携機関以外での研究インターンシップの流れ

連携機関以外での研究インターンシップへの補助については交通費のみが支給されます。

- ① 学生は、主指導教員と相談後、受入先の研究者から受入の了承を得ます（随時）。
※主指導教員は、学生への事前指導をお願いします。
- ② 主指導教員は、受入先研究者から了承を得たら、下記の書類を連大事務室に提出してください
（申請は随時受け付けますが、以下の期限までに書類を提出してください。 海外：6ヶ月前、国内：3ヶ月前 まで）。
 - ・研究インターンシップ実施計画書（所定様式） ・受入先研究者の経歴
 - ・インターンシップを希望する学生の経歴
- ③ 主指導教員から提出された書類を基に、代議員会で審査（確認）します。
- ④ 連大事務室より改めて受入先機関へ学生の受入を依頼します。
- ⑤ 学生は、申請した期間でインターンシップを実施します。学生には、終了時に受入先の研究者からインターンシップ実施報告書を作成してもらうよう指示しています。
※主指導教員経費（運営費）より旅費の手続き・支給を行います。
- ⑥ 学生は、4月または11月の報告会で発表後、下記の書類を1ヶ月以内に主指導教員に提出します。
 - ・研究インターンシップ実施報告書（所定様式） ・受入研究者の報告書
- ⑦ 主指導教員は、成績評価後、下記の書類を連大事務室に提出してください。
 - ・成績報告書 ・学生からの研究インターンシップ実施報告書 ・受入研究者の報告書

研究インターンシップ実施計画書

〇〇年〇〇月〇〇日

岩手大学大学院連合農学研究科長 殿

主指導教員 連大 太郎
 (配属大学： 〇〇大学)

下記の機関で研究インターンシップを履修させてよろしいか確認願います。

記

履修学生氏名 〇〇 〇〇 (男) 女

受入機関名 〇〇大学〇〇研究センター

受入機関住所 〇〇県〇〇市〇〇町〇の〇

受入指導者氏名・役職

〇〇 〇〇・准教授

受入機関事務担当者所属・氏名： 〇〇研究センター・ 〇〇 〇〇

電話： 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 FAX： 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

Eメールアドレス： 〇〇〇@〇〇.〇〇.〇〇.jp

研究インターンシップ実施計画（概要）

② 研修テーマ：農村景観の計量的評価に関する調査プロセスの把握

②実施予定時期： 〇〇年〇月〇日～〇月〇日

③研修の主な目的：

履修学生の研究（集落における農業生産活動の分析）を、生産活動だけでなく農村景観の視点からも捉えられるように視野を広げるきっかけを与える。

④受け入れ先の状況：

同センターの受入研究員が所属する研究室では、農村景観に関する多くの研究実績をあげており、調査プロセスを体験させる研修の場として適している。

⑤研修内容：

研究員に同行し、同センターの調査フィールドでの調査活動、とりわけ写真景観情報の取得、住民による景観評価の手法、調査結果の解釈の仕方等を体験させ、研究活動全体のイメージを把握させる。

○国際学会コミュニケーション

年度・学期		2023・通年		単位数	1		
授業科目名		国際学会コミュニケーション					
授業科目名(英語)		Communication for International Conferences					
主な対象学生		2 年次					
科目番号		UAL713D					
主な使用言語		英語					
履修上の条件		国際研究集会等で学生が筆頭者として英語による研究発表を行うこと。					
担当教員情報	氏名(カナ)	主指導教員					
	氏名(英語)	Major supervisor					
	所属						
	相談可能時間	主指導教員が適宜設定。					
他の担当教員							
キーワード		国際研究集会、研究発表、英語					
学位授与方針との関係		連合農学研究科のディプロマポリシーのうち、とくに「異文化コミュニケーション力」と「研究成果発信力」と深く関係し、研究成果の発表を通じて海外の研究者と研究交流するための基本的スキルを学ぶ。					
授業の目的		国際学会などに参加して、英語による研究発表・討論を行う一連の準備プロセスを修得するとともに、発表方法などの改善について指導を行います。					
到達目標		自らの研究を英語で発表することを通じて、海外の研究者と研究交流するための基本的スキルを修得することを目指します。					
授業の概要		事前、事後のプロセスを含めて、国際学会などに参加し英語での研究発表・討論を行うことを授業として位置づけます。 1) 事前指導 : 研究発表の内容や具体的な発表について計画を立てて、主指導教員に提出し、主指導教員から事前指導を受けます。 2) Abstract の作成 : 国際学会の開催要領を把握した上で参加申込を行い、Abstract を作成して送付します。 3) 発表資料の作成 : Proceeding などの原稿、口頭発表用の資料またはポスターの成果物を作成します。 4) プレゼンテーションのスキルアップ : 繰り返しの練習等で英語による発表のスキルアップを図ります。 5) レポートの作成 : 自己評価を含めたレポートを作成し、主指導教員に提出します。 6) 事後指導 : 質疑応答の内容、出席者からのコメント、発表の問題点、将来への展開などについて主指導教員と総括を行い、事後指導を受けます。					
授業の形式		対面による指導。国際研究集会等でのプレゼンテーションの実践。					
授業時間外の学習／予習・復習		主指導教員から指導を受けるため、事前に英語によるプレゼンテーションの内容を作成しておくとともに、事後は発表会での質疑への対応を含めて反省点を確認する。					
成績評価方法(評価の観点)と基準		評価方法	割合	評価の観点			
				関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
		事前指導の参加状況 1)	20%	◎	◎	◎	◎
		プレゼンテーション 2)～4)	50%		◎	◎	◎
		レポート 5)	10%	◎	◎	◎	
		事後指導 6)	20%	◎	◎		
評価の基準		上記の 6 項目について総合的に評価します。					
履修における留意点		・ここという国際学会とは Conference、Symposium、International meeting、International workshop などとします。 ・参加する国際学会は開催地(国内外)を問いませんが、公式言語として英語が採用されており、英語による発表であることを条件とします。 ・学位申請後の旅費の補助及び単位認定は行いません。 * 旅費の支給額・範囲については、40～41 ページをご覧ください。					

指導教員への補足説明

1) 交通費支援について

学生支援として、海外での国際学会に参加する場合のみ、交通費（上限15万円）を支給しております。交通費は、11月末で締切、1月に主指導教員の研究費として配分しますので、学生の旅費は主指導教員が運営費で立て替えてお支払いください。（宿泊費は支給されません）

国際学会参加後に「旅行命令伺」等の交通費の明細写しを連大事務室に提出してください。国際学会コミュニケーションの単位として認定されるには「岩手大学大学院連合農学研究科の学生」としての学会参加が必要です。社会人学生への指導をお願いします。

2) 事後の手続きについて

受講生から、主指導教員にレポートが提出されますので、主指導教員は、国際学会コミュニケーション実施報告書を作成し、下記の書類と一緒に連大事務室へ提出してください。

提出書類

- ・成績報告書
- ・国際学会コミュニケーション実施報告書（様式6）
- ・学生レポート・学生が国際学会等で報告したことを示す証拠資料（大会プログラムのコピー等）

※成績報告書及び様式6は、連大HPからダウンロードできます。

国際学会コミュニケーションの流れ

※発表形式は口頭発表又はポスター発表とします。

- ① 主指導教員は、研究発表の内容や具体的な発表について学生に事前指導を行います。
- ② 学生は、開催要領を確認して参加申込を行います。
*学会へは「岩手大学大学院連合農学研究科（The United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University）の学生」として参加すること
*主指導教員経費（運営費）より旅費の手続き・支給
（旅費の支給額・範囲については、40～41ページ参照）
- ③ 学会参加後、学生からレポートが提出されますので、主指導教員は事後指導を行ってください。
学生からの提出書類 ・レポート ・発表したことがわかるプログラム等の写し
- ④ 主指導教員は、下記の書類を連大事務室に提出してください。
・国際学会コミュニケーション実施報告書（様式6） ・成績報告書
・学生レポート ・発表したことがわかるプログラム等の写し

*注意

- 発表の際は所属名を「岩手大学大学院連合農学研究科（the United Graduated School of Agricultural Sciences, Iwate University）」と明記すること
- 海外渡航届けを連大事務室へ提出すること（「渡航届」は連大HPにあります。）

→ <https://ugas.agr.iwate-u.ac.jp/student/download/>



国際学会コミュニケーション実施報告書

年 月 日

岩手大学大学院連合農学研究科長 殿

主指導教員 _____
(配属大学 : _____ 大学)

下記のとおり、国際学会コミュニケーションを実施したので報告します。

記

履修学生氏名 : _____ (配属大学 : _____ 大学)

発表年月日 : _____ 年 月 日

発表した大会・シンポジウム等 : _____

開催地 (国名・都市名) : _____

発表タイトル : _____

指導教員所見

※学生から提出された報告書に基づいて指導教員の所見を簡単に記入してください。

* 学生が国際学会等で報告したことを示す書類 (大会プログラムのコピー等) を添付してください。

○社会人特別演習

年度・学期		2023・通年	単位数	1			
授業科目名		社会人特別演習					
授業科目名(英語)		Special Seminar for Working Students					
主な対象学生		1～2 年次 ※社会人カリキュラムのみ					
科目番号		UAL721D					
主な使用言語							
履修上の条件		社会人学生のみ					
担当教員情報	氏名(カナ)	主指導教員					
	氏名(英語)	Major supervisor					
	所属						
	相談可能時間	主指導教員が適宜設定。					
他の担当教員							
キーワード		職場、イベント、プレゼンテーション					
学位授与方針との関係		連合農学研究科のディプロマポリシーのうち、とくに「研究成果発信力」と「科学普及能力」と深く関係し、専門外の人に対して分かりやすく研究内容を紹介できる能力を育成する。					
授業の目的		社会人研究者に求められる研究活動や専門外の人への普及活動について、社会人学生のそれぞれの職場での実践結果を報告(プレゼンテーション)してもらい、柔軟な研究応用力と普及能力を高める助言・指導を行います。					
到達目標		自らの研究や職場の研究課題を専門外の人々にわかりやすく伝えるための基本的スキルを修得することを目標とします。					
授業の概要		社会人の職場での研究活動・普及活動に関して多面的な指導を行います。 1)事前指導:入学年度当初に、各職場での学位論文研究以外での研究・普及活動(例:研究機関が実施する公開講座や市民向け研究成果報告会等での発表)について、研究・普及活動計画を立て、主指導教員に事前指導を受ける。 2)実践:提出した研究・普及活動計画に基づき、適宜、主指導教員や副指導教員に相談し、指導を受けながら各職場で実践する。 3)プレゼンテーション:実践した研究・普及活動について、実践の内容、成果、課題についてまとめた研究・普及活動報告書及び証拠書類をまとめて主指導教員に提出するとともに、主指導教員を含む発表会でプレゼンテーションを行う。 4)事後指導:プレゼンテーションおよび報告書の内容をもとに、報告会参加者から助言・指導を受ける。					
授業の形式		対面による指導。実際の説明会等でのプレゼンテーションの実践。					
授業時間外の学習／予習・復習		主指導教員から指導を受けるため、事前にプレゼンテーションの内容を作成しておくとともに、事後は説明会等での質疑への対応を含めて反省点を確認する。					
成績評価方法(評価の観点)と基準		評価方法	割合	評価の観点			
				関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
		事前・事後指導の状況	20%		◎		◎
		プレゼンテーションの内容	40%		◎	◎	
研究・普及活動報告書		40%	◎	◎	◎	◎	
評価の基準		研究・普及活動報告書(様式7)を、用紙2枚程度にまとめて作成し、実践の概要、実践の成果と課題について記述し、証拠書類と併せて主指導教員が指定した期日までに提出してください。 研究・普及活動報告書の内容およびプレゼンテーションの内容によって、総合的に評価します。					
履修における留意点		・ 自らの職場で、この単位の取得に可能な実践が可能かを判断し、かつ、内容について適当かどうか主指導教員と相談してから履修申告するようにしてください。 ・ 履修申告時には、具体的な研究・普及活動の日程や内容が明らかな場合でも、「〇月頃、公開講座で報告予定」等として計画を立て提出することができます。					
履修における留意点		・ 職場での研究・普及活動の実践では、連大教員は原則として立ち会えませんが、実施計画が明らかになった時点で、適宜、主指導教員と相談し助言を受けてください。 ・ 各実践終了後は、できるだけ早い時期に主指導教員に報告してください。 ・ プレゼンテーションの日時、場所、報告時間などは主指導教員の指示に従ってください。					

指導教員への補足説明

社会人特別演習は、とくに研究所に勤務する研究員で本務として社会貢献活動が位置づけられ、市民対象の公開講座などへ参画が要請されている社会人学生を想定し、用意された科目です。社会人研究者の本務のスキルアップに役立てながら単位を取得できるので、当該学生の主指導教員の方は講義の趣旨を知らせ、履修を勧めるようにしてください。

終了後、学生から主指導教員へ研究・普及活動報告書（様式7）が提出されます。

主指導教員は、社会人特別演習実施報告書（様式8）を作成し、下記の書類と一緒に連大事務室まで提出してください。

- ・成績報告書
- ・学生からの研究・普及活動報告書（様式7）
- ・プレゼン資料等の写し

社会人特別演習の流れ

- ① 主指導教員は、学生が作成した研究・普及活動計画に対し、事前指導を行います。
- ② 学生は、指導教員から指導を受けながら各職場で実践します。
- ③ 学生は、年度末に下記の書類を主指導教員に提出するとともに、主指導教員を含む発表会でプレゼンテーションを行う。

<提出書類>

- ・研究・普及活動報告書（様式7）
- ・発表したことがわかるプレゼン資料等の写し

- ④ 主指導教員は、「社会人特別演習実施報告書（様式8）」を作成するとともに、成績評価を行い、下記の書類を連大事務室に提出してください。

<提出書類>

- ・成績報告書
- ・社会人特別演習実施報告書（様式8）
- ・学生からの研究・普及活動報告書（様式7）
- ・プレゼン資料等の写し

社会人特別演習実施報告書

年 月 日

岩手大学大学院連合農学研究科長 殿

主指導教員 連大 太郎
(配属大学： 大学)

下記のとおり、社会人特別演習を実施したので報告します。

記

学生氏名/ Name	学籍番号/ Student No.	配属大学/ University
1. 指導内容		
2. 指導教員の所見		

○教育研究指導

年度・学期		2023・通年	単位数	1			
授業科目名		生物生産科学教育研究指導／生物資源科学教育研究指導／地域環境創生学教育研究指導					
授業科目名(英語)		Education and Research Guidance in Bioproduction/Bioresources/Regional Environment Creation					
主な対象学生		1 年次 ※一般カリキュラムのみ					
科目番号		(生物生産科学)UBP812D、(生物資源科学)UBR812D、(地域環境創生学)UEC812D					
主な使用言語		日本語または英語					
履修上の条件		一般入学者のみ					
担当教員情報	氏名(カナ)	主指導教員					
	氏名(英語)	Major supervisor					
	所属						
	相談可能時間	主指導教員が適宜設定。					
他の担当教員							
キーワード		ゼミナール司会、学生指導					
学位授与方針との関係		連合農学研究科のディプロマポリシーのうち、とくに「異文化コミュニケーション力」と「研究成果発信力」と深く関係し、異世代との信頼関係の構築や研究普及のための基本的スキルを学ぶ。					
授業の目的		指導教員の講義の一部や研究室ゼミナールの司会を担当することにより、教育・指導のスキルについて体験的に学び、教育者としての素養の向上を目指します。					
到達目標		研究室ゼミや指導教員の講義の一部等を通じて、学部学生等を対象に効果的な研究指導を行うための基本的スキルを修得することを目標とします。					
授業の概要		主指導教員の監督の下で主指導教員が担当する講義の一部を担当するか、修士学生、学部学生の研究室ゼミナールでの司会等を担当し、講義やゼミナール終了後は指導教員と講義内容改善のための方策を話し合う内容の講義科目です。 1)1 回の講義で、事前指導→当日の講義→事後指導までで 4 時間程度 2)1 回の研究室ゼミナールの司会で、当日の講義→事後指導までで 4 時間程度 * 1)と2)の組み合わせにより 15 時間以上を目安に実施します。					
授業の形式		主指導教員による対面または実地(研究室ゼミや授業時)による指導。					
授業時間外の学習／予習・復習		担当する講義や研究室ゼミの発表内容等をチェックし、わかりやすい説明の仕方を工夫しておくとともに、事後は指導教員の助言を踏まえて反省点を確認する。					
成績評価方法(評価の観点)と基準		評価方法	割合	評価の観点			
				関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
		個別指導の状況	20%		◎		◎
		実地指導の内容	40%		◎	◎	
		レポート	40%	◎	◎	◎	◎
評価の基準		教育指導受講者の講義準備状況、講義内容、講義終了後の学生への対応、レポート等により総合的に評価します。					
履修における留意点		・この科目の履修にあたっては、必ず主指導教員と事前に相談してください。主指導教員の判断で履修できないこともあります。また、具体的な授業内容も主指導教員によって異なりますので、よく相談してから履修申告してください。 ・指導が終了次第、主指導教員にレポート(所定様式)を提出してください。					

指導教員への補足説明

この科目は、学生が希望すれば誰でも履修し単位を取得できるという性格のものではなく、実質的には主指導教員が学生指導の過程で、学生の能力を見極めながら履修させ、単位を認めるかどうかを判断することになります。学生の履修に際しては、必ず適切な指導とチェックをお願いします。

学生が教員の代わりに行う講義は、あくまで主指導教員の指導・監督の下で行われるもので、単に主指導教員の講義を代行させるものではありません。主指導教員は、学生の指導能力を見極めながら、講義をさせてよいかを慎重に判断し、無理な実施は避けてください。

主指導教員の指導のもとに計画を立てるものとしますが、概ね以下のような時間配分で実施してください。

1. 1回の講義で、事前指導→当日の講義→事後指導、あわせて4時間
2. 1回の研究室ゼミナールの司会で、当日の講義→事後指導、あわせて4時間

※1と2の組み合わせにより、15時間以上。

終了後、学生から主指導教員へレポート（様式2）が提出されます。主指導教員は提出されたレポートの内容をチェックし、これに履修者の講義準備状況、講義内容、講義終了後の学生への対応等により総合的に評価し、成績報告書と学生からのレポートをあわせて連大事務室まで提出してください。

教育研究指導の流れ

- ① 主指導教員の監督の下、学生が主指導教員の担当する講義の一部を担当するか、研究室ゼミナールでの司会等を担当します。終了後、主指導教員は、学生に指導を行ってください。
- ② 学生は、終了後にレポート（様式2）を主指導教員に提出します。
- ③ 主指導教員は、学生からのレポートと一緒に成績報告書を連大事務室に提出してください。

学生交通費等の支援について

学生の国際通用性や若手研究者の育成を積極的に推進する観点から、幾つかの講義科目について、下記の要領で学生の交通費等の支援を行います。

記

◇科学コミュニケーション

事 項	補助項目	備 考
合宿参加費	宿泊費	連大から本人へ支給
開催地への移動・必要な前泊	交通費・宿泊費	連大から本人へ支給 (開催地(開催大学)所属以外の学生に限る)

※合宿のための参加費(宿泊・食事等)は、参加時に徴収しますが(2万円程度)、すべてのプログラム参加後、旅費支給規定に基づいて定額分の補助が支給されます。

※開催地(開催大学)所属以外の学生が参加する場合は、自宅もしくは所属大学のどちらか近い(旅程上安価な場合も含む)方から陸路計算で積算された交通費相当額及び必要な前泊分の宿泊費を補助支給します(すべてのプログラム参加後)。

◇研究インターンシップ

事 項	補助項目	備 考
カナダ・サスカチュワン大学(連携協定)	交通費、宿泊費	連大から本人へ支給
東北農業研究センター(連携大学院)	交通費、宿泊費	主指導教員の研究費へ配分
岩手生物工学研究センター(連携大学院)	交通費、宿泊費	主指導教員の研究費へ配分
青森県産業技術センター(連携大学院)	交通費、宿泊費	主指導教員の研究費へ配分
上記以外の国内研究インターンシップ	交通費(上限10万円)	主指導教員の研究費へ配分
上記以外の海外研究インターンシップ	交通費(上限15万円)	主指導教員の研究費へ配分

◇国際学会コミュニケーション

事 項	補助項目	備 考
海外での国際学会	交通費(上限15万円)	主指導教員の研究費へ支給

※日本国内での国際学会への交通費は連大からの補助はありません。

※学位申請後の旅費補助及び単位認定は行いません。

※国際学会コミュニケーションで単位付与及び交通費支援の対象となるのは、筆頭者で実際に口頭発表またはポスター発表を英語で行った学生に限ります(単なる連名者、学会参加者は含まれません)。また、所属名は必ず「岩手大学大学院連合農学研究科 (the United Graduated School of Agricultural Sciences, Iwate University)」としてください。

◇デュアル・ディグリープログラム

事 項	補助項目	備 考
サスカチュワン大学への渡航費（在籍期間中往復 1 回分）	交通費	連大から本人へ支給 （日本から参加する場合）

- 注 1) 連大派遣のカナダ・サスカチュワン大学以外の研究インターンシップ及び国際学会コミュニケーションの学生交通費は、11 月末で締めきり、1 月に研究費を運営費交付金として配分します。12 月以降に実施した場合の学生交通費は、翌年度研究費（運営費）として配分します。また、旅費は一旦主指導教員の研究費（運営費）から支給願います。各構成大学において旅行命令伺（旅行計画）及び計算書を作成してください。主指導教員は、研究インターンシップ・国際学会コミュニケーション実施後に、各構成大学において作成された旅行命令伺（旅行計画）及び計算書の写しを、連大事務室までご送付願います。配分する交通費については、各構成大学において作成された旅行命令伺（旅行計画）及び計算書に記載された交通費を基に計算します。それ以外の場合は、支援の対象となりませんのでご注意ください。上限 10 万円（国内研究インターンシップ・連携機関以外）もしくは 15 万円（海外研究インターンシップ・連携機関以外）の補助については、交通費にのみ適用されます。この場合の宿泊費および日当に關しては、各構成大学の旅費規則に従ってください。
- 注 2) 補助につきましては在籍期間中いずれも 1 回分まで補助いたします。
- 注 3) デュアル・ディグリープログラムの学生への研究インターンシップ及び国際学会コミュニケーションの交通費補助はありません。
- 注 4) すべての交通費は自家用・公用車等の使用は支給対象外です。
- 注 5) 海外でのパック料金の場合、宿泊費がわかる資料を提出していただきます。
- 注 6) すべての宿泊費は宿泊施設が発行する「宿泊証明書」を提出していただきます。

岩手連大の成績評価ガイドライン

岩手連大では、学生の成績評価について、以下のようなガイドラインを定めています。成績判定は、「秀」「優」「良」「可」「不可」の5段階で行われ、合格は「秀」「優」「良」「可」の判定で単位が認定されます。その他、「不可」「保留」と判定された場合、単位認定はされません。

1. 講義については、一部（教育研究指導、特別演習、特別研究）を除き、ペーパー試験あるいはレポート課題のいずれかで評価が行われます。
2. ペーパー試験の場合、その評価点数と5段階評価の関係は以下の通りです。

秀：90点以上 優：89～80点 良：79～70点 可：69～60点
不可：59点以下

3. レポート課題の場合、5段階評価は概ね以下の基準によります。
秀：教員が求めるレポート課題に十分に答える内容であり、かつ、教員がレポートに求める内容以上に、与えた課題から派生する受講者のすぐれた論理展開や新たな知見の記述が見出せること。
優：教員が求めるレポート課題に十分に答える内容であること。
良：教員が求めるレポート課題にほぼ答える内容であるか、もしくは十分に答える内容ではないがレポートの作成に一定程度の努力が認められること。
可：教員が求めるレポート課題に十分に答える内容にはなっていないが、的確な回答がレポートに含まれていること。
不可：教員が求めるレポートの課題に的確に答える内容にまったくなっていないこと。
4. ペーパー試験、レポート課題以外の評価（受講の態度、講義への参加度など）は教員の判断で加点要素として採用されます。ただし、秀については上記2および3の基準を満たす場合のみ与えられます。
5. このガイドラインは与えられた課題に対する学生からの提出物等の評価のあり方を全般的に示したものです。具体的な評価方法等は各科目のシラバスの記述を参照してください。



この冊子はグリーン購入法の基本方針に適合した
npi 上質紙グリーン 70 (PEFC) を使用しています